

Title	鈴木公雄名誉教授著者目録
Sub Title	Catalog of the writings of the late emeritus Professor Kimio SUZUKI
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	2006
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.74, No.4 (2006. 3) ,p.143(463)- 153(473)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-20060300-0144

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

今後とも私自身の学問の幅を広げられるような形で様々な交流をさせて頂ければ、と考えております。

おわりに

本日は、安藤先生、櫻井先生に、父の軌跡というものがよく分かるように丁寧にお話をして頂いて、大変感謝しております。本来ならば、そこで鈴木公雄については語りつくされていると思いますか、私が敢えて付け加える余地がないほど十分に語って頂いたと思うのですが、ただ身近にいた者から敢えて何か一言付け加えさせて頂くとすれば、以上のようなことをこの場をお借りして申し上げたい。鈴木公雄が作った道を後の方々がどんどん先まで歩んでいく姿、多分父は、そういう姿を見るのが一番あの世で楽しいことなのではないかと思えます。ある意味では私自身も同じようなことを今しているようなところがありまして、最初に道を作るといふか、最初にプログラムを作って整備するというのは本当にエネルギーが必要で、それだけで参ってしまうようなところがありますが、それだけに、後から来る人の方がもしかしたらもっと成功するかもしれないということは大いにありうると思えます。父親は多分それを望んでいないと思えます。それこそ彼が一生をかけてやりたかったことです。現在の状況を打開し、且つ後の世代に苦勞はさせないということですね。それは父が私にしてくれたことでもあり、民族学考古学専攻の中で父がしてきたことでもある。そのことをいつまでも覚えておいて頂ければ、息子としてこれ以上嬉し

いことはございません。

本日はどうも長時間にわたりお聞き頂きまして本当にどうもありがとうございました。
(法学部)

著作目録

- 一九五五(昭和三〇)年
「折本町観音山採集の土偶について」『Archaeology』21 慶應義塾高等学校考古学会 (報告) 二月
- 「野川影向寺台貝塚」『Archaeology』21 慶應義塾高等学校考古学会 (報告) 二月
- 「茨城県行方郡津澄村繁昌鬼越貝塚発掘報告・自然遺物」『Archaeology』22 慶應義塾高等学校考古学会 (報告) 一二月
- 一九五六(昭和三一)年
「謎の日本舊石器文化」『以前』第6号 慶應義塾高等学校文化団体連盟 (論文・新田充と共著)
- 「茨城県石岡市三村字地蔵久保三村貝塚発掘報告 土製品・総括」『Archaeology』23 慶應義塾高等学校考古学会 (報告) 八月
- 一九五七(昭和三二)年
「茨城県新治郡出島村大字安飾安食平貝塚発掘報告 骨角器」『Archaeology』24 慶應義塾高等学校考古学会 (報告) 九月

月

一九六〇(昭和三五)年

「有角石器の一新例」『貝塚』第九六号 (報告) 三月

一九六一(昭和三七)年

「書評オスカル・モンテリウス著『考古学研究法』」『あるかいあ』創刊号 三考会 (書評) 一二月

一九六三(昭和三八)年

「千葉県山武郡横芝町姥山 山武姥山貝塚の晩期縄文土器に就いて」『史学』第三六卷第一号 三田史学会 (論文) 八月

「書評 杉原莊介・戸沢充則著『神奈川県杉田遺跡及び桂台遺跡の研究』考古学集刊第二卷第一号」『あるかいあ』第三号 三考会 (書評) 十一月

一九六四(昭和三九)年

「土器型式の認定方法としてのセットの意義」『考古学手帖』二一 (論文) 一月

「姥山Ⅱ式土器に関する二・三の問題」『史学』第三七卷第一号 三田史学会 (論文) 六月

「横浜市港北区下田西貝塚付近出土の注口土器」『あるかいあ』第五号 三考会 (報告) 一〇月

一九六五(昭和四〇)年

「書評V・G・チャイルド近藤義郎訳『考古学の方法』」『あるかいあ』第六号 三考会 (書評) 十一月

「千葉県八日市場市久方貝塚の晩期縄文土器に就いて」『史学』第三八卷第一号 三田史学会 (論文) 六月

「「チャシ」の性格に関する一試論——特にその社会的機能を中心として——」『物質文化』第六号 物質文化研究会 (論文) 一〇月

一九六六(昭和四一)年

「藤森栄一著 井戸尻」『史学』第三八卷第四号 三田史学会 (書評) 三月

「真福寺遺跡泥炭層出土の土器に就いて」『史学』第三九卷第二号 三田史学会 (論文・清水潤三と共著) 九月

一九六七(昭和四二)年

「大井晴男著 野外考古学」『史学』第三九卷第四号 三田史学会 (書評) 三月

「千葉県八日市場市多古田遺跡」『日本考古学年報』一五 日本考古学協会 (報告) 三月

一九六八(昭和四三)年

「関東地方縄文晩期文献目録」『Archaeology』30 慶應義塾高等学校考古学会 (藤村東男と共著) 三月

「千葉県山武郡姥山遺跡」『日本考古学年報』一六 日本考古学協会 (報告) 三月

「茨城県水海道市築地遺跡」『日本考古学年報』一六 日本考古学協会 (報告・清水潤三・竹下次作と共著) 三月

「一九六七年の動向——(2) 縄文時代」『考古学ジャーナル』第一九号 (動向・小林達雄と共著) 四月

「関東地方晩期縄文文化の概観」『歴史教育』第一六卷第四号 歴史教育研究会 日本書院 (論文) 四月

「永峯光一著 佐野」『考古学雑誌』第五四卷第一号 日本考古学会 (書評) 六月

一九六九 (昭和四四) 年

「千葉県八日市場市久方貝塚」『日本考古学年報』一七 日本考古学協会 (報告) 三月

「安行粗製土器における文様施文の順位と工程数」『信濃』第二

一卷第四号 信濃史学会 (論文) 四月

「土器型式における時間の問題」『上代文化』第三八輯 國學院

大學考古学会 (論文) 一〇月

一九七〇 (昭和四五) 年

「Design System in Later Jomon Pottery」『人類学雑誌』第七八

卷第一号 日本人類学会 (論文) 三月

「茨城県石岡市高嶺貝塚」『日本考古学年報』一八 日本考古学

協会 (報告) 三月

「埼玉県真福寺泥炭層遺跡」『日本考古学年報』一八 日本考古

学協会 (報告) 三月

「石包丁様石器について」『史学』第四三卷第一・二号 三田史

学会 (論文) 五月

「加曾利北貝塚出土の特殊遺物」『加曾利貝塚Ⅲ』貝塚博物館

調査資料三 日本考古学協会加曾利貝塚調査団 (論文・清水潤三と共著)

一九七三 (昭和四八) 年

「New Archaeology 素描」『考古学ジャーナル』第七七号 ニュ

ーサイエンス社 (論文) 一月

鈴木公雄名誉教授著作目録

「無文字史学と文字史学」『三色旗』第三〇一号 慶應義塾大学通信教育部 (論文) 三月

一九七四 (昭和四九) 年

「集団」研究のための覚え書き—林報告に対するコメントにか

えて—『考古学研究』第二一卷第二号 考古学研究会 (論文) 九月

「先史学の基礎理論」I. Rouse 著 雄山閣出版 (翻訳) 一二

月

一九七五 (昭和五〇) 年

「解説」『考古学の足あと』M. Magnusson 著・本荘隆訳 学

生社 (解説) 九月

一九七六 (昭和五一) 年

「パネルディスカッション 縄文人の社会・魚骨からみた諸活動

の復原」『季刊どるめん』八号 (論文) 一月

「パネルディスカッション 縄文人の社会 (下)」『季刊どるめ

ん』九号 (小林達雄・林謙作と討論) 四月

「加曾利南貝塚出土の土器・4 晩期の土器」『加曾利南貝塚』

杉原荘介編 中央公論美術出版 (論文)

一九七七 (昭和五二) 年

「加曾利北貝塚出土の特殊遺物」『加曾利北貝塚』杉原荘介編

中央公論美術出版 (論文・清水潤三と共著) 三月

「実験考古学」J. M. Coles 著 学生社 (翻訳) 六月

「貝塚産魚類の体長組成復元における標本採集法の影響について—特にクロダイの体長組成について—」『第四紀研究』第

一四五 (四六五)

一六卷第二号 日本第四紀学会 (論文・小宮孟と共著) 八月

「これからの考古学研究」『歴史読本』一九七七年九月号 新人物往来社 (論文) 九月

「日本史の基本文献」『三色旗』第三五四号 慶應義塾大学通信教育部 九月

一九七八 (昭和五三) 年

「伊皿子貝塚」『伊皿子貝塚遺跡見学会』港区教育委員会 (見学会資料) 十一月

「考古学からみた環境と人間」『かんきょう』第二卷第三号 (論文)

一九七九 (昭和五四) 年

「縄文人の生活」『歴史公論』一九七九年二月号 (論文) 二月

「貝塚の調査」『自然科学と博物館』第四六卷第四号 国立科学博物館 (論文) 三月

「縄文文化論」『日本考古学を学ぶ (三)』大塚初重・戸沢充則編 有斐閣 (論文) 七月

「貝塚における貝の総量について (上)」『考古学ジャーナル』第一七〇号 ニューサイエンス社 (論文) 一二月

一九八〇 (昭和五五) 年

「貝塚における貝の総量について (下)」『考古学ジャーナル』第一七一号 ニューサイエンス社 (論文) 一月

「縄文人の生活」『歴史公論』第五卷第二号 (論文) 二月

「日本考古学会第十一回例会講演要旨 東京都・伊皿子貝塚の調

査について」『考古学雑誌』第六五卷第四号 日本考古学会 (報告) 三月

「先史時代遺跡における魚骨標本の組成に関する基礎研究」『自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究 総括報告書』文部省科学研究費補助金研究成果報告書 渡辺直経編 (論文) 三月

「貝塚の研究と自然遺物」『季刊どるめん』二四・二五号 (論文) 五月

「伊皿子貝塚の調査」『三田評論』第八〇四号 慶應義塾 (報告) 六月

「C・レンフルー著 大貫良夫訳『文明の誕生』」『社会経済史学』第四六卷第三号 社会経済史学会 (書評) 九月

「再び真福寺泥炭層出土の土器について (上)」『史学』第五〇卷記念号 三田史学会 (論文) 十一月

一九八一 (昭和五六) 年

「伊皿子貝塚遺跡」港区伊皿子貝塚遺跡調査団 (共編著) 三月
『縄文土器大成 4―晩期』鈴木公雄・林謙作編 講談社 (共編) 四月

「特論―型式・様式」『縄文土器大成 4―晩期』鈴木公雄・林謙作編 講談社 (論文) 四月

「関東地方」『縄文土器大成 4―晩期』鈴木公雄・林謙作編 講談社 (論文) 四月

「再び真福寺泥炭層出土の土器について (下)」『史学』第五一

卷第一・二号 三田史学会 (論文) 六月

「縄文工人の世界(上)」『本』六卷七号 講談社(論文) 七月
「縄文工人の世界(下)」『本』六卷八号 講談社(論文) 八月

一九八二(昭和五七)年

『石の文化史』M. Shackley 著 岩波書店(翻訳) 三月

「縄文時代(第一節、第五節)」『八日市場市史上巻』八日市場

市史編さん委員会(論文) 三月

「縄文波状縁土器の文様配置について」『史学』第五二卷第二号

三田史学会(論文) 九月

「伊皿子と木戸作―二つの縄文時代貝塚の比較をめぐって―」

『稻・舟・祭―松本信廣先生追悼論文集』『稻・舟・祭』刊

行世話人 六興出版(論文) 九月

一九八三(昭和五八)年

『港区三田済海寺 長岡藩主牧野家墓所発掘調査概報』港区教育

委員会(共編著) 三月

「加曾利貝塚と貝塚研究の歩み」『加曾利貝塚と日本の考古学』

加曾利貝塚保存二五周年記念講演会 文化財保存全国協議

会・千葉市の遺跡を守る会(論文) 三月

「日本先史土器の分類学的研究」『東京大学総合資料館展示解

説』(論文) 十一月

「縄文時代の生活と文化」『埋もれていた縄文人のくらし』群馬

県立博物館(論文) 七月

「ことばのサロン」『三色旗』第四二六号 慶應義塾大学通信教

育部(随筆) 九月

一九八四(昭和五九)年

「魚骨の研究」『考古学ジャーナル』第三二七号 ニューサイエ
ンス社(論文) 一月

「尾ヶ崎貝塚貝層柱状サンプルの分析」『尾ヶ崎遺跡―縄文・古

墳時代集落跡の調査―』埼玉県庄和町・尾ヶ崎遺跡調査会

(論文) 八月

「考古学とはどんな学問か―その現状と未来」『別冊歴史読本

目で見る時代考証シリーズ』五 新人物往来社(論文) 一

〇月

「日本の新石器時代」『講座日本歴史一 原始・古代一』歴史学

研究会・日本史研究会 東京大学出版会(論文) 一〇月

「寿能泥炭層位石の調査の意義―とくに木製品・漆製品を中心

に―」『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 人工遺物編』埼玉

県立博物館(論文) 三月

「松本彦七郎論―土器研究にみる層位と型式の関係―」『縄文文

化の研究』第一〇巻 加藤晋平・他編 雄山閣出版(論

文) 四月

「貝塚の発掘」『考古学調査研究ハンドブックス1 野外編』

岩崎卓也・他編 雄山閣出版(論文) 一〇月

「西ヨーロッパの新石器文化(ベルナルデイ・バゴリニ著)」

『先史時代のヨーロッパ 図説世界の考古学3』福武書店

(翻訳) 一〇月

一九八五(昭和六〇)年

「縄文人の食べ物」『縄文人の知恵』小学館創造選書七四 埴原

和郎編 小学館(論文) 四月

- 「縄文人と数」『縄文人の知恵』小学館創造選書七四 埴原和郎
編 小学館 (論文) 四月
- 「絶対視するのは危険」『科学朝日』第四五卷第八号 朝日新聞
社 (論文) 七月
- 「よみがえる縄文の文化伝統」『歴史読本』一九八五年一月号
新人物往来社 (論文) 一月
- 「縄文貝塚の規模」『日高見国—菊池啓次郎学兄還暦記念論集
—』菊池啓次郎学兄還暦記念会 (論文) 二月
- 「実験考古学の方法」『考古学調査研究ハンドブック3 研究
編』岩崎卓也・他編 雄山閣出版 (論文) 三月
- 「東京都港区伊皿子貝塚」『探訪 縄文の遺跡 東日本編』戸沢充
則編 有斐閣 (論文) 三月
- 一九八六 (昭和六一) 年
- 「古代—遺跡と文学のあいだ」『三田評論』第八六八号 慶應義
塾 (山本健吉・坪井清足・志水正司との座談会) 三月
- 「港区芝公園一丁目遺跡」『東京都遺跡調査・研究発表会』XI
武蔵野文化協会考古学部会・東京都教育委員会・杉並区教
育委員会 (報告・共著) 三月
- 「Volumetry and Nutritional Analysis of a Jōmon Shell-Midden」
in Akazawa, T. and Aikens, C. M. eds., *Prehistoric Hunter-
Gatherers in Japan*, The University Museum, The University
of Tokyo, Bulletin 27. (論文) 三月
- 「麻布台一丁目 郵政省飯倉分館構内遺跡」港区麻布台一丁目遺
跡調査会 (共編著) 三月
- 「港区三田済海寺 長岡藩主牧野家墓所発掘調査報告」港区教育
委員会 (共編著) 三月
- 「縄文時代の生活様式と文化」『日本人の原像 海外視点日本の
歴史1』祖父江孝男編 ぎょうせい (論文) 五月
- 「日本人の心をさぐる」『日本人はどこからきたかシリーズ』鈴
木公雄・中村孚美編 福武書店 (論文) 七月
- 「縄文時代研究の現状と課題」『月刊文化財』第二七八号 文化
財保護委員会 第一法規出版 (論文) 一月
- 「巻頭言—清水潤三先生と考古学研究会—」『慶應義塾大学考古
学研究会二十周年記念論集』慶應義塾大学考古学研究会報
告3 慶應義塾大学考古学研究会 (随筆) 二月
- 「縄文人は何人いたか」『歴史地理』第三九五号 (論文)
一九八七 (昭和六二) 年
- 「「チャシ」の性格に関する一試論—特にその社会的機能を中心
として—」『日本考古学論集八 武器・馬具と城柵』斎藤忠
編 吉川弘文館 (論文) 三月
- 「私と伊皿子」『三色旗』第四六八号 慶應義塾大学通信教育部
(随筆) 三月
- 「デンマークの中石器時代人の生活」T. D. Price, E. B. Petersen
著 『サイエンス』第一七卷第五号 日経サイエンス社 (阿
部祥人と共訳) 五月
- 『考古学』慶應義塾大学通信教育部 慶應通信 (著書) 三月
- 「テキストの周辺 考古学」『三色旗』第四七一号 慶應義塾大
学通信教育部 六月

一九八八(昭和六三)年

『考古学入門』東京大学出版会 (著書) 一月

『出土六道銭の組合わせからみた江戸時代前期の銅銭流通』『社会経済史学』第六三卷第六号 (論文) 二月

『江戸時代の埋蔵文化』『下水文化研究』第一号 下水文化研究会 (論文) 三月

『芝公園一丁目 増上寺子院群光学院・貞松院跡』港区教育委員会 (共編) 三月

『六道銭の考古学』『アイアン・クラブ定例午餐会講演要旨』第五九集 アイアン・クラブ (講演要旨) 五月

『縄文人の生活と文化 古代史復元2』講談社 (編著) 七月

『縄文人は何人いたか』『一〇〇問一〇〇答日本の歴史』歴史教育者協議会編 河出書房新社 (解説) 七月

『縄文時代の時期区分と発展の段階』『考古学研究』第三五卷第二号 考古学研究会 (論文) 九月

『近世考古学の課題』『村上徹君追悼論文集』村上徹君追悼論文集編集委員会 (論文) 一二月

一九八九(平成元)年
『貝塚の考古学』UP考古学選書5 東京大学出版会 (著書) 一月

『出土六道銭の枚数と墓の保存状態』『考古学の世界』慶應義塾大学民族学考古学研究室 新人物往来社 (論文) 六月

『豊かな歴史の復原 戸沢充則編』『縄文人と貝塚』『赤旗』七月 一七日 (書評) 七月

『レポートをどう書くか』『三色旗』第四九七号 慶應義塾大学通信教育部 八月

『縄文土器』『アジアと土器の世界』アジア民造研叢書 アジア民族造形文化研究所 雄山閣出版 (論文) 九月

『藤沢発掘調査の現状と問題点』『慶應労組結成三〇周年記念講演集』慶應義塾労働組合 (講演録) 九月

一九九〇(平成二)年
『争点 日本の歴史 第一巻 原始編』鈴木公雄編 新人物往来社 (編者) 一〇月

『縄文時代はいつ始まったか』『争点 日本の歴史 第一巻 原始編』鈴木公雄編 新人物往来社 (論文) 一〇月

『地中から掘り出された近世像』『争点 日本の歴史 第五巻 江戸時代 近世編』青木美智男・他編 新人物往来社 (論文) 四月

一九九一(平成三)年

『新著紹介』『争点日本の歴史I 原始編—旧石器—縄文・弥生時代—』『三色旗』第五二二号 慶應義塾 (新刊紹介) 八月

『粟津湖底遺跡と縄文時代の植物利用』『月刊文化財・発掘出土情報』第一〇四号 (コラム) 八月

『世界考古学地図…人類の起源から産業革命まで』C. Scarr 編 朝日新聞社 (共訳) 一〇月

一九九二(平成四)年

『出土備蓄銭と中世後期の銭貨流通』『史学』第六一卷第三・四号 三田史学会 (論文) 三月

「調査のまとめ―貝塚の語るもの―」『上高津貝塚の発掘』土浦市教育委員会・土浦市遺跡調査会 (報告) 三月

「土浦市上高津貝塚周辺の後期更新世より完新世の古植生」『土浦市立博物館紀要』第四号 (論文・辻本崇夫と共著) 三月

「房総の成立と縄文文化」『房総の古代史をさぐる』麻生優・鈴木道之助編 築地書館 (論文) 六月

「縄文土器の年代はどうしてわかるのか」・「縄文人はどんなきっかけて土器を発明したのか」・「縄文人に虫歯が多かったのはなぜか」・「糞の化石から何がわかるのか」・「縄文人たちの交通や交易はどのようなだったのか」・「縄文時代の環境は今とどう違うのか」・「貝塚はゴミ捨て場か(大型貝塚は干し貝の生産工場か)」・「雪国では大型住居は埋まってしまっているのか」・「縄文人のDNA(遺伝子)から何がわかるのか」・「縄文土器はなぜ複雑なつくりをしているのか」・「縄文人はなぜ土偶を破壊したのか(安産祈願か)」『二〇〇〇年一〇〇答 日本の歴史2 原始・古代』歴史教育者協議会編 河出書房新社 (解説) 七月

一九九三(平成五)年

「多数の銭貨を有する六道銭について」『史学』第六二卷第三号 三田史学会 (論文) 一月

「中・近世出土銭貨の研究―考古学的手法による銭貨流通史の復元―」文部省科学研究費補助金研究成果報告書 三月

「新視点 日本の歴史 第一卷 原始編」鈴木公雄・石川日出志編

新人物往来社 (共編) 四月

「縄文文化は日本の基層文化か」『新視点 日本の歴史 第一卷 原始編』鈴木公雄・石川日出志編 新人物往来社 (論文) 四月

「渡来銭から古寛永通宝へ―出土六道銭からみた近世前期銭貨流通史の復元―」『論苑 考古学』坪井清足さんの古希を祝う会 天山舎 (論文) 四月

「出土銭貨から中世の銭の使用を復原する」『新視点 日本の歴史 第四卷 中世編』峰岸純夫編 新人物往来社 (論文) 六月

「考古学教育と大学」『考古学ジャーナル』第三六九号 ニューサイエンス社 (論文) 一二月

「縄文人の技術力と生活の知恵―縄文漆に見る日本の生産・品質管理の原点―」『CREO』一九九三年第一号 神鋼ヒューマン・クリエイティブ (論文) 一二月

「銭貨の流通」『日本歴史館』小学館 (論文) 一二月 一九九四(平成六)年

「上高津貝塚A地点」慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室 小報9 (共編) 三月

「序文・調査のまとめ・英文要旨」『上高津貝塚A地点』慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室小報9 (報告) 三月

「念仏銭・題目銭と六道銭」『史学』第六三卷第三号 三田史学会 (論文) 三月

「出土銭貨からみた中世後期の銭貨流通」『中世』から「近

世」へ—中世考古学及び隣接諸学から—資料集』第五回
「考古学と中世史研究」シンポジウム 帝京大学山梨文化財
研究所 (論文) 六月

「チャシ」の性格に関する一試論—特にその社会的機能を中心
として—『アイヌのチャシとその周辺』北海道チャシ学会
(論文) 六月

「六道銭に見る江戸時代の銭貨流通」『八百八町の考古学』山
川出版社 (論文) 八月

「出土銭貨研究の諸問題(その1)」『出土銭貨』第二号 出土
銭貨研究会 (論文) 一〇月

一九九五(平成七)年

『日本古代遺跡事典』大塚初重・鈴木公雄・他編 吉川弘文館
(共編) 三月

「出土銭貨研究の諸問題(その2)」『出土銭貨』第三号 出土
銭貨研究会 (論文) 四月

「縄文人と日本列島の自然」『縄文時代展・自然とともに生きた
人々』福岡市博物館 (論文) 九月

「山内清男と縄文土器編年」『考古学者—その人と学問』市民の
考古学2 明治大学考古学博物館 名著出版 (論文) 八月

「古銭の取り持つ縁」『三田評論』第九七三号 慶應義塾 (随
筆) 一〇月

「出土銭貨研究の諸問題(その3)」『出土銭貨』第四号 出土
銭貨研究会 (論文) 一〇月

一九九六(平成八)年

鈴木公雄名誉教授著作目録

「出土銭からみた日本中世の銭貨輸入と使用」『MUSEUM KY-
USHU』第一四巻第一号 博物館等建設推進九州会議 名著
出版 (論文) 一月

「出土銭貨からみた中世後期の銭貨流通」『中世』から「近
世」へ』考古学と中世史研究五 帝京大学山梨文化財研究
所 名著出版 (論文) 二月

『能ヶ谷出土銭調査報告書』町田市教育委員会 (共編) 三月
『能ヶ谷出土備蓄銭とその歴史的背景』『能ヶ谷出土銭調査報告
書』町田市教育委員会 (論文) 三月

「上高津貝塚の調査と史跡の整備について」『国指定史跡上高津
貝塚整備事業報告書』土浦市教育委員会 (論文) 八月

「縄文人の村のくらし」『太古のロマンと見附』見附市教育委員
会 (論文) 一〇月

「中世出土銭貨一覽」『角川日本史辞典』朝尾直弘・他編 角川
書店 (論文) 十一月

『日本土器事典』大川清・鈴木公雄・工楽善通編 雄山閣出版
(共編) 一二月

「縄文土器総論」『日本土器事典』大川清・鈴木公雄・工楽善通
編 雄山閣出版 (論文) 一二月

『綾瀬市史』9 「別編考古」を讀んで『市史だより』第二〇
号 綾瀬市役所秘書課市史編纂係 (書評・共著)

一九九七(平成九)年

「埋蔵銭が語る中世の経済」『大航海』第一四号 新書館(論
文) 二月

一五一 (四七二)

「考古学とマスコミ報道」『三色旗』第五八七号 慶應義塾
(論文) 二月

「中世東国の出土銭」『埋蔵銭の物語—出土銭からみた中世の世
界—』上高津ふるさと歴史の広場 (論文) 二月

「貝が教える海の道」『FRONT』第九卷第六号 (財) リバーフ
ロント整備財センター (論文) 三月

『考古学がわかる事典』日本実業出版社 (著書) 五月
「寛永通宝」『考古学がわかる』アエラムック二六 朝日新聞社
(論文) 六月

一九九八(平成一〇)年

「町田市能ヶ谷遺跡出土銭」『れきし'98—春号』日本史講座機
関誌No六一 NHK学園 (解説) 三月

「出土銭貨からみた中・近世移行期の銭貨動態」『歴史学研究』
第七一一号 歴史学研究会 青木書店 (論文) 六月

「出土銭貨からみた中・近世移行期の銭貨動態」『金融研究』第
一七卷第三号 日本銀行金融研究所 (論文) 七月

一九九九(平成一一)年
「出土銭貨の研究」東京大学出版会 (著書) 三月

「縄文人の水産資源開発—とくにマダイ漁を中心に—」『シルク
ロード学研究叢書 水と文明Ⅰ』「和の国」連続国際シンポ

ジウム シルクロード学研究センター (論文) 三月
「卒論とどう取り組むか」『三色旗』第六一二号 慶應義塾大学

通信教育部 三月
「縄文文化のうるし技術—東アジア先史文化の中の縄文文化

—」・「縄文人は何を食べていたか」・「縄文人のマダイ漁」
『過去をどう読むか—考古学を知る—』平成十年度保谷市柳
沢公民館主催事業歴史講座 (講演録) 四月

「犬猫・大名・ぜに」『UP』第三一九号 東京大学出版会
(論文) 五月

「出土銭貨からみた中・近世移行期の銭貨動態」『越境する貨
幣』シリーズ歴史学の現在Ⅰ 歴史学研究会 青木書店
(論文) 五月

「犬猫・大名・ぜに—考古学の広がり—」『交詢雑誌』No四二〇
(論文) 五月

交詢社 (講演録) 七月

「新著紹介『出土銭貨の研究』」『三色旗』第六一八号 慶應義
塾大学通信教育部 九月

「著者インタビュー」『代ゼミジャーナル』第四七八巻四号
代々木ゼミナール (記事)

二〇〇〇(平成一二)年
「私のアメリカ旅行」『月刊健康』第五〇五号 月刊健康発行所
(随筆) 二月

「上高津貝塚の調査と霞ヶ浦の貝塚」『内海の貝塚縄文人と海と
のかかわり』上高津貝塚ふるさと歴史の広場 (論文) 三月

「日本先史土器の分類学的研究分類学的研究—山内清男と日本
考古学—」『デジタルミュージアム2000』東京大学総合研究

博物館 (論文) 三月
「日本史における銭」『別冊歴史読本 日本史研究最前線』新入

物往来社 (論文) 六月

「考古学における出土銭貨研究の可能性」『飛鳥池遺跡—富本銭

と白鳳文化—』奈良国立文化財研究所飛鳥資料館 ケイ・

アイ・メディア (論文) 一〇月

「古戦場の考古学—最近のアメリカ歴史考古学の新しい試み

—」『史学雑誌』第一〇九編第一号 財団法人史学会 山

川出版社 (論文) 一二月

「手のひらの中の国家」『日本史がわかる』アエラムック六五

朝日新聞社 (論文) 一二月

二〇〇一(平成一三)年

「清涼寺釈迦像背剝部納入銭貨について」『出土銭貨研究』出土

銭貨研究会 (論文) 五月

二〇〇二(平成一四)年

「出土銭貨研究の展望」『季刊考古学』第七八号 雄山閣出版

(論文) 二月

「銭の考古学」歴史文化ライブラリー一四〇 吉川弘文館 (著

書) 五月

「執筆ノート『銭の考古学』」『三田評論』第一〇四八号 慶應

義塾 (随筆) 七月

「貨幣研究の広がり—『銭の考古学』番外編」『本郷』第四一号

吉川弘文館 (論文) 九月

「三人閑談 貨幣を通して世相が見える」『三田評論』第一〇五

一〇号 慶應義塾 (植村峻・利光三津夫と鼎談) 一二月

「デジタル・コンテンツの構築に向けて三次元資料の画像デー

タ・ベース化について」『慶應義塾大学デジタル・コンテン

ツ研究運用機構報告書二〇〇一—二〇〇二』慶應義塾大学

デジタル・コンテンツ研究運用機構 (論文) 一二月

二〇〇三(平成一五)年

「全国から出土した古代銭貨—古代銭貨流通の特色—」『おか

ね』はじめて物語』上高津ふるさと歴史の広場 (論文) 三

月

「縄文時代研究の現状をどう見るか」『考古学の最前線』安藤政

雄編 学生社 (論文) 五月

「出土銭貨研究と歴史考古学」『城下町の六道銭 発表要旨・資

料集』 (論文) 一二月

二〇〇四(平成一六)年

「安行粗製土器における文様施文の順位と工程数」『展望日本歴

史3 原始社会』石川日出志・小杉康編 東京堂出版 (論

文) 二月

「民族学考古学専攻の二五年」『時空をこえた対話—三田の考古

学—』慶應義塾大学民族学考古学研究室 六一書房 (巻頭

言) 三月

二〇〇五(平成一七)年

「古代銭貨史に関する再検討・前近代日本貨幣史の再構築にむ

けて」『日本銀行金融研究所』第二四卷第一号 日本銀行金

融研究所 (論文) 三月

「歴史考古学の発達と考古学の未来」『史学』第七三巻第四号

三田史学会 (論文) 三月

「考古学はどんな学問か」『東京大学出版会』(著書) 六月